

こんにちは♪ いつまでも夏が居座っていて、暦のうえでは秋のはずなのに真夏日があつたりしたのですが、ようやく夏が重い腰を上げて、秋らしくなりましたね。季節は確実に秋に変わりました。秋と言えば、ファッションの秋、芸術の秋、スポーツの秋、恋愛の秋、食欲の秋…。何をするにもふさわしい季節ですね。そして、忘れてはならないのが「読書の秋」！ 食欲の秋で食べ過ぎるとタイヘンですが、本は読みすぎてもすべて栄養になります。図書館で本を借りれば、サイフも空になりません。いいことづくめの読書の秋を満喫しましょう！ 秋の夜長は本とともに過ごしましょうね♪

さて、大好評だった『あんぱん』に続いて、NHK朝ドラで『ばけばけ』が始まりました！ 日本の怪談を作品化したラフカディオ・ハーン（小泉八雲）と、彼を支えた妻・セツの物語です。今号では、そのドラマ関連本を特集したいと思います。

ばけばけ！

『雪女 夏の日の夢』 ラフカディオ・ハーン 岩波書店

ハーンと言えば、「耳なし芳一の話」などが収録されている『怪談』がもっとも有名ですが、まず最初に読んでほしい本ということで、彼の傑作をセレクトしてまとめた岩波少年文庫のこの本を紹介したいと思います。読みやすくて、怪談のほかに収録された日本についてのエッセイもとてもよいからです。では、まずは怪談の代表作「ムジナ」を紹介しましょう。

東京の赤坂のあたりにキノクニザカという坂道があって、そこにムジナが出没した。ある晩遅く、男がキノクニザカを急ぎ足で上っていると、一人の女が壕^{ほり}ばたにうずくまって激しく泣いているのを見た。壕に身を投げるのではないかと心配した男は、女に声をかけた。女はほっそりとして上品そうで、着物も立派な娘さんだった。娘は男に背を向けたままで、長い袖の片方で顔を隠して、そのまま泣き続ける。男がその肩にそっと手をかけると、娘は向き直り、袖を下ろして、片手で顔をなでた。その顔には、目も鼻も口もなかった。男はひたすらに暗闇を逃げた。すると、ぽつんと蕎麦の屋台の提灯が灯るのを見つけた。男が見たものを説明しようとするや、「こんなもんじゃなかったかい？」と蕎麦売りが顔をなで、卵そっくりの顔になってしまった。「…とその瞬間、明かりがふっと消えた」。

「のっぺらぼう」ですね。最後の一行が絶妙だと思いませんか？

『ラフカディオ・ハーン 日本のこころを描く』

河島弘美 岩波書店

読みやすいハーンの伝記。ハーンの少年時代はとても寂しいものでした。ハーンは、ギリシアのイオニア諸島のひとつ、レフカダ島に生まれました。父はアイルランド人、母はギリシア人です。2歳半くらいまでそこで過ごしたのち、母とともにアイルランドの首都ダブリンにある父の実家に移ります。ところが、軍務のため父はいず、再会もつかの間、またすぐにクリミア戦争に出征してしまいます。夫のいない何もかも故国とは違う異国の暮らしで、母は精神を病み、4歳のハーンを残してギリシアに帰国してしまいます。一方、父は初恋の女性と再婚するために母と離婚し、インドへ行ってしまふのです。ハーンは大叔母に預けられることになります。名前を呼ばれることなく、「子ども」と呼ばれていたハーンは、5歳になって、離れた部屋で一人で寝るように命じられます。家中でいちばん陰鬱な部屋に入れられて、灯りを消されて真っ暗ななかで、錠を下ろされる。幼いハーンは、どれほど恐ろしかったことでしょう。13歳でイギリスの厳しいカトリック系の全寮制の学校に入学し、キリスト教が大嫌いになります。校庭の遊具のロープの結び目が左目を直撃し、失明をしてしまいます。経済的な理由から学校を中退しロンドンに出るのですが、どうにもならず、19歳になってついにアメリカへと渡ります。やれることなら何でもやるといった感じで苦勞しますが、やがて新聞記者として頭角を現します。「わたしがねらうのは、読者の心に生き生きとした印象を――単に眺めているのではなく、庶民の日常生活に加わり、まるで日本に暮らし、日本人のこころで考えているような印象を与えることです」。そして、いよいよ日本へと赴きます。

『思い出の記』 小泉節子 ヒョコ舎

セツの最愛のひと、ヘルン（みなに倣ってハーンをこう呼んでいた）の思い出を1冊にまとめた本。「面白いときには、世界中が面白く、悲しいときには世界中が悲しい、と云ふ風でございました。怪談の時でも、何の時でも、そうでしたが、もうその世界に入り、その人物になつて仕舞うのでございました。話を聞いて感ずると、顔色から眼の色まで変はるのでした。自分でもよく、何々の世界と、よく世界と云ふ言葉を申しました」。

ヘルンのさまざまなエピソードが目一杯詰め込まれています。理想的な夫婦の関係が伝わってきます。この本を読めば、きっとあなたもヘルンのことが大好きになるでしょう。「私この小泉八雲、日本人よりも、本当の日本を愛するです」。

『ストロベリームーン』 芥川なお すばる舎

映画『ストロベリームーン 余命半年の恋』の原作！「令和イチ泣ける」と評判の作品が、当真あみ & 齋藤潤のW主演で映画化です！

「ねえ、佐藤君ってストロベリームーンって知ってる？」「ストロベリームーンには縁結びの効果もあると言われているの。好きな人と一緒に見ると永遠に結ばれるとも……私、その素敵な迷信を信じてみたいんだ」。高校の入学式に遅刻してきた佐藤日向は、こっそり学校に入ろうとして、自分史上見たことのないレベルの美少女と出会う。彼女の名は桜井萌。同じクラスだった。驚くべきことにその日のうちに萌は日向に告白し、つきあうことになるのだった。今年のストロベリームーンは、萌の誕生日だった。日向は萌に心から喜んでほしいと思い、サプライズのバースデープレゼントをあげ、夜に二人で家を抜け出して念願のストロベリームーンを一緒に見ることができた。ところが、次の日、教室に彼女の姿はなかった…。号泣必至！

『平場の月』 朝倉かすみ 光文社

山本周五郎賞受賞の「愛と闘病モノ」の大傑作を、堺雅人 & 井川遥W主演で映画化！ タイトルの「平場の月」とは、私たちの暮らす特別なところのない場所（平場）から見上げる月のことです。青砥は、深夜に須藤の部屋を見上げ、ベランダから覗いた彼女の顔をその夜の月に似ていると思い、後日「おまえ、あのとき、なに考えてたの？」と尋ねます。須藤は「夢みたいなことだよ。夢みたいなことをね。ちょっと」と答えます。

50 歳になった青砥は「念のため」に受けた胃の内視鏡検査で「念のため」日を改めて調べてみたところ腫瘍が見つかり、要精検となった。ショックを受けて病院の売店に寄ったところ、中学以来会っていなかった同級生の須藤がレジで働いているのに再会する。実は青砥は中学時代に彼女にコクって断られたことがあった。青砥の須藤に対する印象は、ちびっこくて痩せっぽちの外見に反して「太い」だった。いつでも平然として、揺るがない感じがしたのだ。二人は LINE を交換した。互いの屈託を逃し合う「互助会」は2日後にもう開催された。焼き鳥屋で、いろいろあったお互いの過去が交換される。2回目は須藤の部屋に行き、さらに恥ずかしい過去を交換した。須藤は自分も同じ日に大腸の内視鏡検査をすることを伝えた。青砥の検査結果は「異常なし」だった。結果は顔を合わせるまで報告しないことになっていた。須藤は進行性の大腸がんだった。青砥は変わらず「太い」ままの須藤に「頼ってほしい」と思う…。

『大使とその妻』上下 水村美苗 新潮社

せーやさんの去年のマイベストが紫式部賞を受賞！ 何かの賞に選ばれると確信していました。「古きよき日本」が大好きで、「失われた日本を求めて」というプロジェクトまで立ち上げた日本在住のアメリカ人のケヴィンは、25 年ものあいだ、夏には軽井沢の人里離れた別荘でひとりで過ごしている。別荘と言っても、小さな簡素なものだ。唯一の隣家は、空き家で荒れるに任されていた。ところが、ここ数年、見る見るうちに軽井沢の開発が進み、醜悪な建物が増えていくのをいまいましく思っていると、その隣家も開発の魔の手から逃れることができなかったのだった。大規模な増築工事が始まる。絶望的な思いでいると、思いもよらぬ展開となった。工事の車のナンバーは京都で、わざわざ京都から大きな庭石を運んで日本庭園を造るのだという。さらには、宮大工が伝統的な日本家屋、書院造りを建てるのだそう。住人は南米から帰国した元外交官夫妻。人嫌いのケヴィンも彼らとは親しくなる。彼はその妻・貴子に日本の最良の部分を見る…。「それにしても、不思議な人であった。かくも昔風の印象を与える日本の女の人は見たことがなかった。少なくとも、あの歳の人では見たことがなかった。それでいて、かくもコスモポリタンな印象を与える人を見たこともなかった」。15 年ぶりのエッセイ集『無駄にしたくなかった話』も！

『すべて真夜中の恋人たち』 川上未映子 講談社

映画化決定！「儚いけれど、それだけあれば生きてゆける光のようなもののことを想って、書きました」。会社に行かず、家で校閲の仕事をしている 34 歳の冬子と、58 歳の高校物理教師・三束との静かな恋愛を描いた小説。著者が物語の主人公にならなそうな「美しくもなく強くもなく若くもない」女性を書いたというように、冬子は、「わたしの話で面白いことなんて、何もないよ」という言葉通りの女性。人づきあいが苦手で、恋人もいず、友人も彼女と対極のような華やかな女性一人だけで、一人でいて何の苦にもならない。外に出るときは日本酒の力を借りなくてはならないほどのダメっぷり。そんな彼女が、カルチャーセンターで初老の男性と出会い、唯一興味のある「光」について語ることで、初めて「恋」の感情に目覚めていく…。自分で語る言葉を冬子が獲得して、物語は閉じられます。

——— おととしの 9 月の真夏日に、いちど終わった紫陽花が狂い咲きしたのですが（11 月まで！）、今年は我が家の朝顔が復活しました！ 植物が勘違いしてしまうほど気候が異常であるということでしょう。もう秋なのね。では、図書館で。